



沖繩戦『未来への証言』について

戦後45年の時を経て、沖繩戦『未来への証言』という記録映画が発表されました。〈戦争を知らない世代に平和の尊さを伝える沖繩戦記録映画の決定版〉とされるこのフィルムは、アメリカ国立公文書館に保管されている2000タイトルもの沖繩戦に関するフィルムの中から、記録を取り寄せ、多くのスタッフと運営委員の人たちによってまとめられたものです。フィルムの買い取りは『沖繩戦記録フィルム1フット運動』として展開され、この時点で7年の歳月を費やしています。

運営委員には当時の沖繩県知事の太田昌秀さんをはじめ、歌手のまよなかしんやさん等各界の代表が参加しています。この時すでに普天間基地の移転先として辺野古案が発表されており、沖繩の米軍基地の撤去が最大の課題とされた時でもありません。この映像が発表される1年前、太田知事は移転反対の立場で再選をめざしますが、僅差で敗北。

容認派の稲嶺知事になっても、基地の移転は受け入れられず、結果として14年間基地問題は暗礁に乗り上げた形になりました。

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

日本国憲法 第9条

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

沖繩の犠牲の上に築かれた日本の繁栄と平和
その根っこが今問われている
高橋哲哉

す。

編集の意図として「何故この島々であんなにも激烈な地上戦が行われ、悲惨な住民犠牲が生じたのか、さらにどうして現在も基地におおわれた沖繩になつていくのか」その実相を明らかにすると共に、「新たな問いかけを生んでいく」とされている。目を覆いたくなるような戦場の映像、白旗の少女が「私だ」と確認されたように、アップで映し出されたらばらになつた死体が、誰であるかが確認された映像は少なくないはずである。映像が公開されることは、癒されぬ傷口をもう一度えぐり出されるような痛みを伴うものであつたと思う。それでも全国の人々に沖繩の現実を知つて欲しい。それが『未来への証言』であつたと、改めて思う。

5年後の戦後50年に『ドキュメント沖繩戦』という映像が再編されている。沖繩県の教育委員会が推薦する形でまとめられたこの映像は、「子どもたちにフィルムを通して沖繩戦を伝える会」が編集。1フット運動が始まって12年、『総集編』として、住民の半数が命を落としたという伊江島の激戦と、激戦の最中に助け出される住民の姿、軍司令部が置かれた摩文仁の断崖に追い詰められた住民の人たち、日本の降伏が決まり「喜びのポーズ」を強要された住民の姿など。

1944年、敗戦色が深まる中、本土決戦、という名の沖繩戦が決定されるまで、沖繩は武器を持たない穏やかな島であつたのだということは忘れてならないのだと思う。激化する戦場で、海外の植民地で採られた戦術としての手法が沖繩でも採用されたという。沖繩の言葉をやればアメリカのスパイの嫌疑が掛けられたのである。スパイの嫌疑を掛けられるより、潔く「自決」をという被害が何故起きたのか：あまりにも多くの問いがここに集められている。(詢)

高橋哲哉さん講演会 感想文

2010年6月26日

感謝・敬意。

- ◆ 分かりやすい話でしたが、戦後の歴史観が変わりました。人生観も変わったと思います。そのくらい、老生にとって有意義なお話でした。
- ◆ 歴史を勉強しましたが、私の認識は甘かったと思います。沖繩に米軍を駐留させて、本土を護ろうとした「昭和天皇の沖繩メッセージ」と同質のものが、今の本土の私たちの中にあるのではないか」という先生のお話に衝撃を受けました。確かに私の中には沖繩の人の痛みがないのだと思います。これからは、自分の問題として、できるだけ考えていきたいと思えます。いろいろなことを考えさせられました。
- ◆ 普天間問題を沖繩の歴史から分析することは正しいと思います。正しい歴史を子ども頃から学ばせることが重要だと思えます。それだけに
- ◆ 教科書が大事。大人にはマスコミが重要だと思います。
- ◆ とても論理的で、難しい話なのにわかりやすかった。
- ◆ 始めて聞くお話が沢山あり、大変勉強になりました。私も戦後の人間ですが、事実をもっと深く広く知らせることが大切だと思います。一人の語り部として、私もできる限り頑張りたいです。今日のお話を伝えます。
- ◆ 日本の戦後は沖繩の植民地的状況によって形成されていたことの歴史を学ぶことができました。
- ◆ 沖繩を見て見ぬふりを、或いは沖繩を見ようとししないで、平和と憲法9条を語る罪、意図しないままに犯してしまふ罪を思う。安保・沖繩問題をさけて平和主義者ぶるのはやめよう、恥を知ろう！
- ◆ 貴会の定期的な講演会に
- ◆ 3年ぶりに参加できませんでした。来年は友人も引き連れて来たいと思います。世話人の方は大変でしょうが、これからも良い企画を期待します。
- ◆ 大変わかりやすい講演でした。沖繩問題を基地の移転問題としてとらえがちですが、歴史的大変なウラがあると、いうことを学びました。権力者は常に強い軍隊を望みめぐしている。党派を超えて反対の声を挙げていかねばと思います。沖繩の痛みをもっと深く広く知らせていかねば…と。
- ◆ 沖繩問題について今の現実だけでなく、歴史の観点から見た今日の講演を聴いて、極めて不十分な自分に気づかされた。日米安保が根底にあることは知っていたが、安保の原点に昭和天皇の思いがあることなど、今まで知らなかった事もあり、有意義であった。
- ◆ 沖繩の歴史を話してもらい、非常にわかりやすく、知らないことも沢山あり勉強になりました。
- ◆ いつも機関誌などありがとうございます。今後とも活動を発展して下さることを念じます。
- ◆ アメリカの世界支配戦略の中で、日本の統治は東側の防波堤として存在していたのだと。その中に天皇の沖繩メッセージがあったとは知りませんでした。国体護持と言うより、天皇の自己保身ではないのか。その犠牲の下に今の沖繩の歴史・真実があると思えました。移転先とか基地のあり方とかのレベルでなく、根本的な問題を解決すべきだと感じます。沖繩は独立すべきなのかもしれませんね…。
- ◆ 現実には「天皇の沖繩メッセージ」の通りになっていることに驚きました。
- ◆ 沖繩の歴史と天皇の関わり、「戦後の国体」は日米安保体制」との指摘が非常によくわかりました。有益な講座ありがとうございました。
- ◆ 憲法9条がつくりあげられていった背景が、すごく良く分かりました。沖繩の人々の犠牲の上にたつて出来上がった憲法9条、それゆえにしっかりと護り拡げていくことが大事だと思います。
- ◆ 沖繩を犠牲にして、日本国(ヤマト)が復興したことがよくわかった。



◆ 大変参考になる講演で、

沖繩の現状における問題の要因を理解することができました。憲法9条の存在に天皇が不安感を感じていたということなど始めて知りました。敗戦処理時における、天皇の沖繩の扱い(米軍支配)に関する意見、理解できません。

◆ 知識でなく、哲学というところがすごい。

◆ 歴史の経緯が現状をつくりだしていると言ふこと、あらためて認識しました。では、知っているなら・認識しているなら、己が何をなすべきなのか?そこが重要。頭で考え、胸に落として、次に自分が何をすべきなのか?人間としての本能的な反応と、動物的本能を越えた人間性を創造しうるのか?私は理性的に対応したい。

◆ 今日はいへん良かった。ぼくも歴史が好きで、いちいち調べていますが、高橋哲哉さんはさすがによく勉強をされていて、すごいと思いましたが、今『靖国問題』を読ん

います。

◆ 新しいことを知るためにたいへん勉強になります。次回もよろしく願います。

◆ 沖繩との関係がわかりました。ありがとうございます。

◆ 大変よくわかりました。

◆ 日米安保条約の解消を求めたい。非暴力による第3次の安保闘争が必要。

◆ 非常に明快なお話でした。

◆ 沖繩問題の本質を知る上で、大変参考になります。天皇制の項など、「目から鱗」です。

◆ 断片的だった歴史に繋がりが、そこに天皇の思いが歴史の形成に大きく関わっていることを知り勉強になりました。ありがとうございます。

◆ 沖繩と天皇の関係が少し理解できました。

◆ 何が、どうして、よくないのか?とてもよくわかりました。だから、やっぱりよくないのだ!と。マスコミによつてはぐらかされている事実を私たちはもつと知った上で、何かをしなくては...

思います。そのためには、やはり学びの機会がたくさん欲しいと...

◆ 高橋先生の歯切れのよいお話に感動しました。

◆ 今日の講演を聴いて、沖繩問題について理解できた。米軍を日本から撤去させるためには安保条約の破棄しかないと思います。今後も今回のような企画をして欲しい。

◆ 沖繩になぜ今も米軍がいるのか:日本がそれを望んでいるのか:沖繩の犠牲の上で成り立っている豊かさや平和"だとすれば、沖繩から米軍基地を早く撤去すべきだと:感じました。

スタッフの感想文は含まれていません



宗教者9条の会・大分 交流学習会

1フット運動の会

『沖繩戦 未来への証言』

沖繩から世界へ平和のメッセージ』

第十七回 7月17日(土) 3時より

会場 コンパルホール 3階 305会議室

大分市府内町1丁目5-38

問合せ 0977-84-2257

年会費納入・カンパを
よろしく願います。

会費・カンパ どうも
ありがとうございました。

堤 栄三/津垣慶哉/泉 暁子/通覚寺
内 幸美/佐藤福子/立川教洋/江林智静
野口春夫/宮岳文隆/大在 紀/藤村憲雄
池本和之/林 正道/瀬川道信/安養寺
藤村暢/清原えつ子/飯田成美/環 文隆
日高幸男/明覚寺/松下和義/横川香生
宮崎優子/菅野俊光/長久寺徳純/岩尾豊文
廣瀬邦照/霊鷲照玄/日野詢城/日野凡記
友成真子/木内隆顕/西岩寺/加藤秀嶺
菅真由美/古谷聡/永井一匡/掛橋泰定
佐々木淳二/三家本稔/松井実世弘
宗 誠輔/平敷桂雄/伊良部公博/森 典正
石井康司/覚正寺/藤谷知道

「宗教者9条の会・大分」総会報告書

2010.6.26 於て(コンパルホール)

| * 収支報告 | | 【単位 円】 |
|-----------------------|---------|--------|
| 収入 | | |
| 会費・カンパ | 515,000 | |
| 公開講座のカンパ | 40,947 | |
| 収入合計 | 555,947 | |
| (収入は6月25日現在) | | |
| 支出 | | |
| 河野義行さん講演会 | 100,000 | |
| 松居 友さん講演会 | 20,000 | |
| スマナサーラさん講演会 | 20,000 | |
| にゅーす等発送費 | 84,000 | |
| 事務費 | 19,469 | |
| コンパル使用料 | 29,100 | |
| 支出合計 | 272,569 | |
| 残 高 | 283,378 | |
| (高橋哲哉さんの講演料は含まれていません) | | |

宗教者9条の会・大分 事務局
 〒 879-5102
 由布市湯布院町川上 3561 見成寺
 TEL 0977-84-2257 FAX 0977-84-5203
 年会費 3,000 円
 郵便振替口座 01720-1-111731

| * 行事報告 | |
|-----------------------|--|
| 1. 会報の発行 | |
| 6月11日 | 19号8頁 |
| 8月 1日 | 20号8頁 |
| 10月 9日 | 21号8頁 |
| 12月 1日 | 22号6頁 |
| 2月20日 | 23号4頁 |
| 5月 5日 | 24号4頁 |
| 6月 5日 | 25号6頁 |
| 2. 公開講座 | |
| 5月18日 | 河野 義行さん「殺すことなかれ」 「本願寺派 大宗会」と共同主催 オアシス 21 音の泉ホール |
| 10月29日 | 松居 友さん 「ミンダナオの風と便り」 「本願寺派 大宗会」と共同主催 日出町 覚正寺 |
| 11月 5日 | 澤地久江・アーサー・ビナードさん 「9条の会 憲法セミナー」 協賛事業として 別府市 ビーコンプラザー |
| 5月17日 | アルボムツレ・スマナサーラさん 「本願寺派 大宗会」と共同主催 日出町 覚正寺 |
| 3. ミニ学習会『今を語ろう』 | |
| 第14回 | 7月 6日 願西寺 |
| 第15回 | 8月19日 願西寺 |
| 第16回 | 3月11日 願西寺 |
| *その他、事業に伴う世話人会を開きました。 | |

◆ 6月26日の講演会には40代の方が沢山参加されていたことが心に残ります。講演会の終了と共に、書籍のサイン会、宗教者9条の会の総会を連続して開催したためか、それともあまりにもショックで、すぐに筆を持つことが出来なかったのか、前回に比べて感想文を残して下さる方が少なかったように思います。普天間の移転問題を含め、私たちが今どこに立ってものを考え

編集後記

たり、語ったりしているのかを根っこから問い返されるような講演でした。次号にそのメモを掲載いたします。

◆ 沖繩戦についてはこれまで何度かテレビで放映されていますが、問題を整理し、心に刻むためには『未来への証言』は必見かと思えます。東洋最大と自負した伊江島の飛行場はわずかな時間で島の小学生までが動員されて造られたもの。そこに飛行場があるというだけで、島の住民の半分が犠牲になってしまった。南の島に飛び立ったという「特攻機」はその殆どが沖繩で失われた。撃墜された特攻機の数2000機を超えたという。

◆ 無謀な「武力による安全の確保」は不可能だという記憶をもう一度確かめねばならないのだと思う。今「9条の会」は海を越えて拡がりつつある。「再び過ちは犯しません」そのために学び語り行動をする。ささやかな市民の声とし、宗教に関わるものとして…(編)